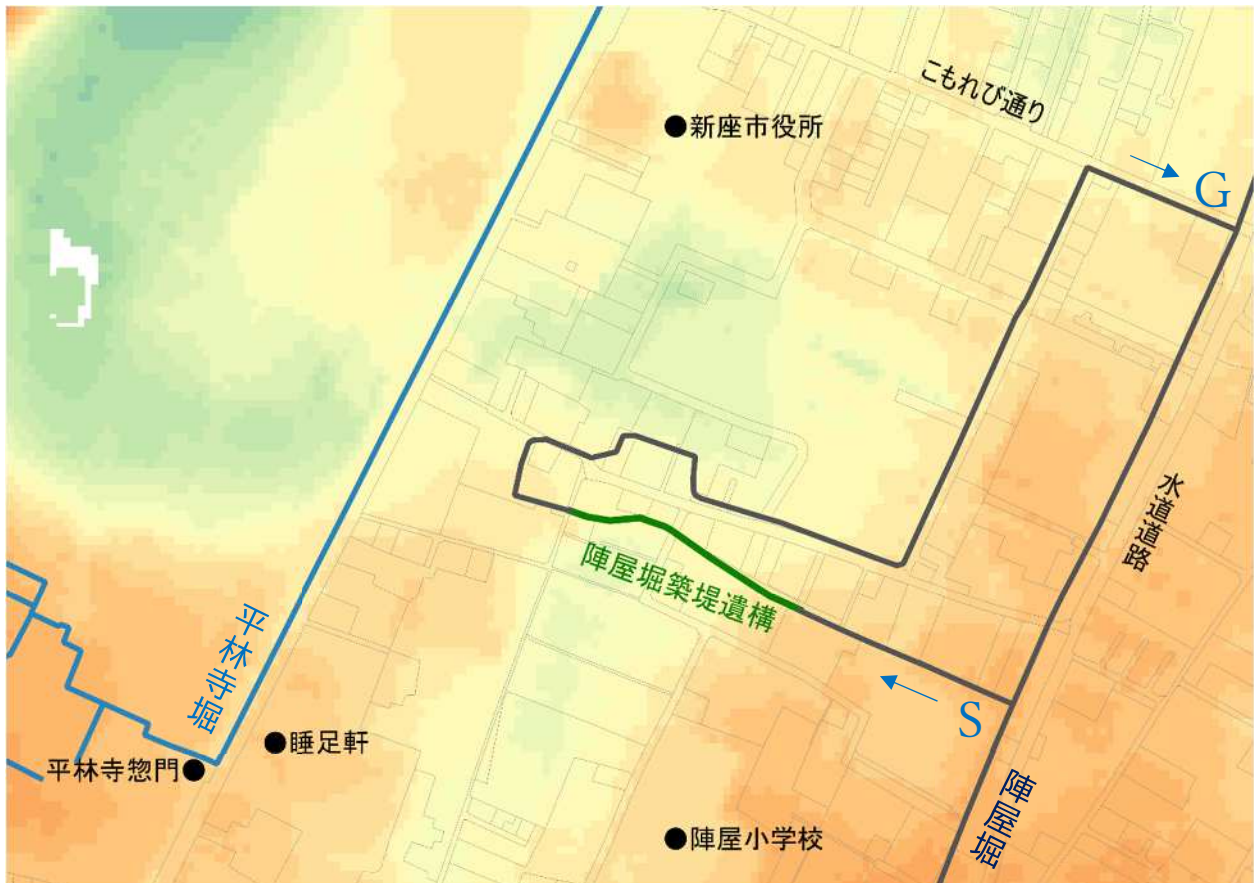


【野火止用水陣屋堀築堤遺構の概説】

野火止用水にはかつて、「陣屋堀」という分水があり、現在の史跡公園で分岐した水路が水道道路に沿って流れていました。陣屋小学校付近ではさらに廻し堀が作られ、高崎藩の陣屋に水が届けられていたと考えられています。

陣屋小学校付近は、土地がわずかに低くなっているため、土を盛り上げ、その上に水路を設けて水を流すという工夫がされました。これが陣屋堀築堤遺構で、江戸時代の高度な土木技術を今に伝えているものです。



陣屋堀築堤の位置と周辺地形

上図の中で、分岐の始まるS地点と、合流するG地点をご覧ください。S地点の地表高は約 41.2m、G地点は約 39.3m で、高低差は約 1.9m です。S地点からG地点までの直線距離は約 376m ですが、陣屋堀築堤を通る廻し堀の距離は 1183m となります。2つの水路を比較すると、陣屋堀築堤は非常に緩やかな勾配であり、高度な測量・土木技術によって構築されていたことがわかります。

<勾配の比較>



直線の水路：距離 376m／高低差 1.9m = 197cm／1cm

廻し堀の水路：距離 1183m／高低差 1.9m = 622cm／1cm